



# '96 Tororōdō Festa ~KOBE-風の坂道~



心はずむ秋の連休は、WELCOME TO トアロード

11月21日(木) 23(土) 24(日) 開催

ハイカラ文化の発祥地「トアロード」を中心として「'96トアロードフェスタ」が11月21日(木)、23日(土・祝)、24日(日)の三日間にわたり開催される。三宮神社での復興祈願オープニングセレモニーからスタートし、トアロードのまちづくりについての講演会・シンポジウム、トアロードを代表するレストラン、カフェテリア、バー

ではこの日のために選りすぐったミュージック演奏、神戸を代表する画家による街角スケッチ、外国人俱楽部ホールでの国際色豊かなライブ演奏やバザールなどなど・・・。秋の週末を楽しむための催しが目白押しだ。平成8年1月17日に発足された「トアロード地区まちづくり協議会」により、一足早い一周年を記念して企画したこのイ

ベントは、まちぐるみの結束をして震災から一日もはやく復興し、トアロードエリアを新しい品格と魅力ある街にしようという意気込みが感じられる。観光客はもちろん、地元神戸っ子たちも、一步一步復興していくヌーベル・トアロードの街並みを、とくとお楽しみあれ。

## ●前夜祭

『トアロードまちづくりシンポジウム』

日時：11月21日(木) 午後4時～8時

場所：神戸外国俱楽部

会費：4,000円(パーティ代を含む)

☆前売りチケット好評発売中/詳しくは事務局までお問い合わせ下さい。

《プログラム》

ご挨拶 関西学院大学教授・嶋田勝次

午後4時～特別講演「トアロードと世界」

京都精華大学教授・呉 宏明

基調講演「トアロードの未来」COM計画研究所代表、立命館大学教授・高田昇

午後5時～シンポジウム／「トアロードの復活をめざして」

【出席予定者】(敬称略)

ウィルエバー(神戸外国俱楽部会長) 大角晴康(阪神・淡路産業復興推進機構副理事長) 新谷秀紀(彫刻家) 高田昇(COM計画研究所代表、立命館大学教授) 宮本豊子(兵庫県立生活



大角さん



新谷さん

科学研究所長)  
中西省伍(トアロード山手会会長) 清水俊夫(トアロード中央商店街振興組合理事長) 上根保

(トアロード商店街東亜会共同組合理事長) 梁建緯(一級建築士)

【コーディネーター】

小泉美喜子(月刊神戸っ子編集長)

午後7時～ コミュニケーションパーティ

## ●トアロード復興祈願

『オープニングセレモニー』

日時：11月23日(祝・土) 午前11時～

場所：三宮神社

会費：無料

【出演】神戸青年合唱団(和太鼓演奏)

神戸少年少女合唱団コスマス(コーラス)

## ●トアロード音楽祭

日時：11月23日(祝・土) 正午～午後5時

場所：聖ミカエル国際学校3Fホール

会費：無料

司会：小山 乃里子・かどもとみのる

演奏内容：インド音楽、アフリカンドラム、フォルクローレ、カリブソ、長唄、アコーディオンなど神戸ならではの国際色豊かな演奏が次々と繰り広げられます。ワールド・ミュージックに酔いしれて、かたときの世界音楽旅行気分を味わうのはいかが？

## ●トアロード・フェスタ協賛バザール

日時：11月23日(祝・土)

午前11時～午後4時

場所：聖ミカエル国際学校運動場

内容：聖ミカエル国際学校在学生父兄によるバザールを開催します。見て回るだけでも異国情緒たっぷりのお店がいっぱい。

# 神戸北野 音楽祭

12/14 Sat.

開場5:00PM／開演6:00PM

新神戸オリエンタル劇場

新幹線／地下鉄新神戸駅よりスグ

〈出演〉

デイヴ・リープマン(sax) & フィル・マコウイツ(p.)

タイガーダイ(tp.)&佐伯準一(key.) グループ

キャシー・ガルシア(vo.) & デイヴ・マッケイ(p.)

その他、地元グループ

時代が変わる

12/14sat.&15sun.

北野界隈のライブスポットにて地元グループによるライヴ

※チケットは各店にお問い合わせください

北野俱楽部／シアターポシェット／ソネ／サテンドール／アルバトロス／サントノーレ／ティファーナ／チャーリーズ／エルパンチョキタノ／セントジョージパン／cmh（セ・エム・ッシュ）／北野異人坂／ホテルグランドビスタ／バンブー／キタノサーカス／展覧会の絵／カサブランカ／バラディキタノ／異人館俱楽部パートII／バラディアーム



小曾根真



タイガーダイ

12/15 Sun.

開場2:00PM／開演3:00PM

神戸外国俱楽部

新幹線／地下鉄新神戸駅より15分

〈出演〉

タイガーダイ(tp.)&小曾根真(p.)

チケット発売中

12/14, 12/15分

前売￥5,000／当日￥6,000

新神戸オリエンタル劇場	078-291-9999
チケットセンター	06-363-9999
チケットぴあ	06-232-9999
チケットセゾン	06-369-6633
ローソンチケット	06-456-2555
関西ブレイガイド協会	

お問い合わせ：甲陽サウンズ  
TEL.078-882-1574

# アール・デコのファッションとその源泉

～20世紀のファッションを決めた『ジュルナル・デ・ダーム・エ・デ・モード』を中心に～  
(婦人向けのファッションニュース)



- ◆とき 平成8年11月23日(土・祝) 午後2時半～4時
- ◆ところ ホテルゴーフルリツ15F(アンダルシアの間)
- ◆講師 伊藤紀之(共立女子大学教授)
- ◆参加費 2,500円(コーヒー付)(税・サービス料込)

◇お申し込みはお電話又はファックスで  
ホテルゴーフルリツ TEL.078-303-5555 FAX.078-303-1332

■講師プロフィール  
**伊藤紀之**(いとうのりゆき)

1940年東京生まれ  
千葉大学大学院工学研究科工業意匠学専攻・修士課程修了  
共立女子大学教授  
著書／「19世紀ヨーロッパ・ファッション・ブレート」共著 講談社1980年  
「被服デザインの体系」三共出版1983年  
「ファッション・ブレートへのいざない」フジアート出版1991年



HOTEL GAUFRES RITZ

ホテルゴーフルリツ

☎(078)303-5555 〒650 神戸市中央区港島中町6丁目1番  
ポートライナー市民広場駅北 神戸商工会議所とツインビル



# もKOBEをMODERNかCULTUREる

— 90 —



## 演劇

★龍の会 第1回公演  
「逃亡」

もだかるプレゼント参考

12/6(金) 19:00

12/7(土) 15:00 / 19:00

12/8(日) 14:00

KAVCシアター

高速新開地東改札8階段徒歩5分

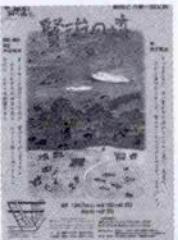
TEL 078-512-5500

前売2300円 当日2500円

前売2300円 当日2500円



演出・深津萬史



西宮アミニティホール  
11/30(日)  
神戸文化ホール大ホール  
12/15(日)  
姫路市民会館  
前売1000円 当日800円

12/7(土) 14:00 / 18:00  
12/8(日) 14:00  
神戸アートビレッジセンター

KAVCホール

高速新開地東改札8階段徒歩5分

TEL 078-512-5500

前売2000円 当日2300円

前売2000円 当日2300円

前売2300円 当日2500円



## 映画

★「金色のクジラ」

もだかるプレゼント参考

11/17(土)



★アジア映画を観る会  
第2回上映会  
「友だちのうちはどこ?」

6・6 4:8(土)まで。



11/30(土) 5:30

神戸市防災コミニティーセンター

高速長田西改札すぐ長田消防署4F  
一般1000円 高校生800円

友達の宿題ノートを間違つ  
て持つて帰つてしまつた小学  
生が、遠い隣村に住む友達に

白河病の小さな弟のいのちを  
救うために家族が力を合わせ  
る姿を、実話に基づいて映画  
化。入場料の一部は骨髄バン  
ク運動に活用される。問合  
わせは、兵庫県映画センタ  
(TEL 078-331-6100)まで。

★第37回カナート名画祭  
ロシア映画祭③  
バレエ特集

もだかるプレゼント参考

12/2(月) ~ 6(金)

カナート・ホール

第2神明大久保ICカナート2F  
TEL 078-967-5101

4本立1000円(入替なし)



「白鳥の湖」

★劇団どろ第71回公演  
「賢治の森」

極限状態におかれ人間は  
いかに会話し、行動するか。  
天安門事件を機にパリへ移住  
した劇作家・高行健の作品を  
「龍の会」が翻訳上演する。  
演出は、関西演劇界のホーブ  
「桃園会」の深津篤史。チケット  
料等の問い合わせは、桃園会  
(TEL 06-233-803)まで。

返しにいく。イランのアッ  
バス・キアロスタミ監督のま  
なざしが優しい。アジアと触  
れ合うことを目的とする上映  
会で、主催は神戸アジアタウ  
ン推進協議会。次回上映は、  
1月25日の「風の丘を越えて  
「西便制」(韓国)。問い合わせ  
は、アジア映画を見る会  
(TEL 078-691-3746 南加工内)  
まで。関連イベント「まるごとアジア  
エスティバル」は、11月23日  
まで長田区総合庁舎7Fで。

★第37回カナート名画祭  
ロシア映画祭③  
バレエ特集

もだかるプレゼント参考

12/2(月) ~ 6(金)

カナート・ホール

第2神明大久保ICカナート2F  
TEL 078-967-5101

4本立1000円(入替なし)

正統派の傑作「白鳥の湖」  
から米ソ初合作「青い鳥」まで、  
バレンタイン映画6本を上映。

他に「アンナ・カーニナ」「ロメオとジュリエット」「イワン雷帝」「スバルタクス」。1日4本の上映作品は日替わりなので、劇場に問い合わせること。全作見ればあなたはもうブリマ。どんな?

前売1300円 当日1500円

## もだかる俱楽部

『星空の』少年、フランキーラードをめぐる男女の不思議なラブストーリー。出演は、アンヌ・バリロー、マット・ディロン、ガブリエル・バーンほか。神戸映画サークル協議会(TEL 078-331-8538)に入会すると、毎月の上映が会員料金に。



## もだかるチケットプレゼント

★市民映画劇場 12月例会  
「フランキー・スター・ライ  
ト」世界で一番素敵なお恋】

もだかるチケット(参考)  
12/20(金)・21(土)  
神戸朝日ホール  
大丸東へ50m 神戸朝日ビル4F  
TEL 078-331-6362

★神戸文化ホール大ホール(11/30)  
姫路市民会館(12/15)共通 「金色  
のクジラ」有効 5組10名

★神戸アートビレッジセンター  
(12/6~8)「逃亡」有効 3組6名

★東灘区民センター・うはらホール  
(12/21~22)劇団青い森「よわむしお  
ばけのたんじょうび」有効 親子ペア  
3組

★神戸阪急ミュージアム(12/11~29)  
「黒澤明展」有効 10組20名

★西灘劇場

(12月末まで有効) 5組10名

▽11/25~30 「愛染かつら」「マダム  
と女房」「風の中の牝鳥」「西鶴一代女」  
「雨月物語」「山根太夫」「彼岸花」「サ  
ンダカン八番娼館」「望郷」「三婆」「櫛  
山節考」のうち1日4本上映(入替なし)  
▽12/2~6 「白鳥の湖」「アン  
ナ・カーニナ」「ロメオとジュリエ  
ット」「イワン雷帝」「スバルタクス」  
「青い鳥」のうち1日4本上映(入替なし)  
▽12/7~15 「ノートルダ  
ムの鐘」(午後) ▽12/14~17  
「モスラ」(午前)

★ベーネシマ

(12月末まで有効) 5組10名

▽11/16~29 「魅せられて」「ジエイ  
ン・エア」▽11/30~12/13 「男はつ  
らいよ」3本立▽12/14~1 「ブラッ  
ク・ジャック」

★カナート・ホール  
(12月末まで有効) 5組10名

▽12/20~21 「フランキー・スター・ラ

●シネマの券ありがとうございます。「午後の遺言状」には泣けてきました。演劇「シャトー・ランズ」にも感動。「宮澤賢治『その愛』」は、あまりの純粹さ、その神経の細やかさに、生きていいくのは大変だったろうと思いました。

(西区・下川典子さん)

○お便りを月刊神戸っ子も  
だかる係までお寄せください。  
採用者には、映画など  
のチケットを差し上げます。

## タカコ アートスクール展

11月20日(水)~25日(月) 6階神戸阪急ミュージアム

開館時間: 11時~7時30分(最終日は6時閉館。閉館30分前までにご入館ください)  
休館日: 期間中は休まず開館  
前期: 11月20日(水)~22日(金)  
後期: 11月23日(土)~25日(月)  
入館料: 500円(税込み)  
中学生以下および65歳以上の方は無料  
(証明書をご提示ください)

主催: タカコアートスクール  
日本トータルフランワーグ会

神戸阪急11月のお休みは

5日(火)・12日(火)

営業時間: 連日11時~7時30分

●次回は1996年度第41回  
新聞・通信・テレビ・ニ  
ュース報道展です。

神戸  
阪急  
阪急東宝ブループ

座談会 第2回（1996年6月28日（金）実施）

# 神戸の輝ける歴史を生かした 新しい「食」の時代を提案

◇座談会出席者（敬称略・順不同）

柚木 学（関西学院大学学長）

端 信行（国立民族学博物館教授）

田辺眞人（園田学園女子大学短大部 助教授）

中村友一（御影貿易商事代表取締役社長）

塩原一正（日本ソムリエスクール校長）

司会

小泉 康夫（本誌代表取締役社長）



去る6月28日に神戸ハーバーランドニューオータニにて『ファッショントピック』としての食に関する座談会の第2回目が開催されました。神戸は、明治元年に開港以来130年余りの歴史がありますが、都市としての機能が形成され、現在の神戸の原点となるものが出来たのはまさにこの時代からではないでしょうか。近代的文化のある街づくりを進めている新生・神戸のこれからも食文化を提案していくために、まず【1】「神戸の成り立ち、歴史をふまえた神戸の食に対するイメージ」をお聞かせいただきました。

また財団法人神戸ファッショントピック協会のなかでは、神戸の復興にあたって多彩な案が出されています。その一つとして、工房を街のあちらこちらに作る工房都市文化を取り入れてはどうかという、神戸らしい発想のプランがでています。この案をぜひ良い形で実現させるために【2】「『神戸を工房文化都市に』という提案に対する具体的なご意見やアドバイス」を頂戴しました。



柚木 学さん  
(関西学院大学学長)

## 食を支える層を見極めた発想が重要

【1】神戸のグルメは、お金持ちを対象にした贅沢品に重点をおくときもあれば、庶民向けの日用品を中心にするなど、色々な種類の商品が混在して発展してきました。といふのは明治時代の開港後、神戸には洋菓子やコーヒーなど、西洋的なものがどんどん入ってきましたが、なかなか庶民の生活までは浸透しませんでしたし、ましてやワインやウイスキーは戦後の産物であり、一般の人々が飲むようになったのはずっと後のことだからです。

食文化を歴史的に検証し、将来の計画を考えるうえでは、「食」を支えてきている人がどういう層だったのか、またどんな層を中心に今後の計画をたてるのかを明確にするべきではないでしょうか。対庶民か、一握りの高級志向の人か、あるいは大多数のグルメグループの人か、神戸に住む人か、観光客か、食文化を支える中心層を見極めることができます。

戦後、米食一辺倒の生活から、パンも口にする生活にかわり、野菜や魚を加工した洋惣菜も生活に入ってきた。昭和30年代以降、電化製品や自動車もできてきました。

したが、我々はいつも与えられるばかりでした。与えられたものから自分で何かを選んで消化していくためには、「豊かさ」が必要となります。だからこそ戦後の「与えられる生活」から解放され、高度成長期に入り、我々が選択できる生活にかわってきた今こそ、眞のグルメや食文化が始まるのだと思います。文化とは与えられるものではなく、自分たちで作り上げていくのですから。もちろん、それを支える人も大切です。そういう意識を持つことが、神戸が立ち上がるために重要な要素になつてくるのではないでしようか。戦災から立ち上がり、震災から立ち上がり、次の新しい文化が育っていく。そのなかにグルメの課題も含まれると思います。

神戸に限らず最近、「食」がだんだん「餅」的要素を帯びてきているような気がします。パック売りが当たり前になり、料理の手間が省けるように、例えば魚はすでにおろした形で販売されているし、調理済のおかずを家で温めたらよいなど、どんどん便利になつていています。口にするだけで食事が終わるような時代の流れを踏まえ、眞のグルメとはいつたいたい何なのか考えなければなりません。昔のハレとケという言葉の意味からすると料理はハレ、つまり祭の日の食べ物でした。貧しいけれどもその日ばかりはお酒も飲めるのだというハレとケの生活がありました。日常はたとえ饅頭的な食事であっても、ハレのときにはグルメも存在するのではないかと思います。

【2】グルメ文化というのは、一方で簡素化されて、歩きながら食べたり、地面に座つて食べたりすることが一般的になつてきていますが、工房の案におきましても、たぶんに食べられたらしいというのではなく、食べ方にも料理や作法という文化があつたことを思い出し、この文化性をもつと出していくべきではないでしょうか。



端 信行さん  
(国立民族学博物館教授)

## サービス・クオリティを高める 経済システムの確立を

【1】文化産業というのは、人々がその文化を支持するという価値観を前提に成り立っています。例えばコンサートの場合は、興味のある人々の間でしか経済は発生せず、興味がない人たちは経済的にまったく関係のない集団です。これまでの日本を含めた世界の産業経済は万人に役に立つという経済原理でしたが、生活が充実してきて真の意味での豊かさが課題となってきたのが今の時代は、人々の価値感がものをいうようになってくると思います。自分が関心のあるものに価値を見い出す、つまり値段の問題も大きく関わってくるわけです。いくらお金がかかってもぜひ食べたいものもあるが、一方ではお昼ご飯ならこの値段しか出したいとか、友達といつしょのときはこのお店に限るとか、ワイン1本の値段は千円なのか十万円なのか…。そのような価値観を前提とする色々な消費経済が産業という単位で動いていくのです。また批評するお客様がどの層にいるのかも、この視点で見ていかなければならぬでしよう。

この戦略としては三つ挙げられます。一つには文化産業というのは、背景となる都市が文化的バックグラウンドを持つていないと打ち出でこないので、神戸文化そのものよりも、神戸という都市がまず文化的方向性を強めていくとともに情報社会の信頼性を持たなければなりません。他でもないアノ神戸で作られている、あるいは売られている神戸の何々だから安心なのだとどうようと。二番目は技術です。どういう形で技術が洗練されにくか。最後は経営。日本のサービス産業は、欧米などの水準に比べると産業としての基盤が弱いというか、日本の観光業や食産業は、製造業に比べて近代化が進んでいません。食文化というのは一種の第三次産業的色彩を強めていくわけですから、サービス業の強化をどれだけ演出できるかが課題だと思います。きちんとしたシステムで社会的にサービス業の質をチェックしてランク付けていく。むしろ震災という問題を考えれば、経済社会の新しいシステムを目指す経営の組み方がこれから大きなヒントになるのではないかでしよう。

【2】今回の神戸の復興に関する工房都市案というのは、一歩進んで文化的な発信につなげようという意図があると思います。何がなんでもさらけだしたら良いということでもありませんし、一方では隠す文化ということも必要です。見せ方、つまりどの部分をどう見せるか。これは演出方法によると思います。神戸の復興にあわせた文化発信の拠点としての食文化アトリエといった考え方にしてはいかがでしょうか。ただこれにもプロデューサーが必要ですね。演出の面でどこをどのように見せれば一番いいのか、どこを隠すべきかをよく考えなければならないでしょう。



田辺眞人さん

(園田学園女子大学短大部 助教授)

## 日常と非日常を合わせもつ 食の特色作りを考えよう

[1] 神戸では、街の食も歴史上忘れてはなりません。兵庫は、撰津名所図会などに生け簾に魚を飼っている絵がでてきますし、有馬地方は、山中にもかかわらず六甲山を越えるとや道があることから、湯治客に対して積極的に水産物を取り入れてもなしていたのではないでしょうか。元禄年間では、灘の名産として六甲山地の急流の水車小屋で作るそうめんがありますし、須磨へやつくる人に、敦盛そばを食べてもらったり、磯馴味噌（そなれみそ）というお味噌を名物にして売っていたという資料も残っています。江戸時代までは、日本の食文化ばかりだったのですが、明治に入り神戸港が開港されると居留地にやつてくる欧米人に影響を受け、今のフランクリンから鯉川筋まで北は西国街道から海岸通りまでに別世界が出来上がつています。住居をはじめ、服装や食事も洋風化し、そんなうわさを聞きつけた人が集まり、色々な食べ物を神戸に持ち運んでくるのです。清国からやってきた中国人は、日本と条約を結んでいなかつたた

め居留地に入ることができず、西側に南京町を作り中国料理を持ち運んできました。大正時代に入ると、ロシア革命がおこり保守派のロシア人が日本に逃げてくるのであります。このように神戸の食文化について歴史的に見た場合、悪く言うと寄せ集め、良く言うと寄り集まつたコスモポリスのような独自の食文化が作り上げられた経緯があつたことがわかります。

昔、神戸は、住むところとして人気がありましたが、今や若い人が遊ぶ街に変わつてきているようと思います。住むという事は日常的な生活、遊ぶという事は非日常的なことを意味します。地震がおこらなければ、神戸はその両面の特徴を持つ土地になつていたのではないかでしょうか。今後復興していくうえでもこの二つの面は大切にするべきです。食に関して言えば、非日常的とは、高くともよいからどうしても食べたい特別な食べ物をつくる、日常的には、料金が高すぎない一般的な料金設定にする、など。神戸には、フランスやロシアのレストランなどもありますが、一般的な洋食屋も多い。中華料理も、北京や上海などをうたう店がある一方で、大衆中華を全面に出した店もある。神戸はどちらの面も似合う街であることを根底に、日常的な生活と非日常的な生活が満足できる二つの面で食産業が進んで行くことを願います。

[2] 前述の江戸時代の兵庫の生け簾でも、旅人が魚を見ている図が名所図会に載っていますし、震災前、すでに灘の酒蔵地帯では、歴史的な酒造りの道具や蔵を開示しました。同様の工夫を他の食の分野にも広げて、新しい街作りを進めてはどうでしょうか。



中村友一さん

(御影貿易商事代表取締役社長)

## 神戸の景観に似合う 店・商品開発を

【1】私の実家は京都で料理屋を営んでおり、私自身も長年京都に住んでいて感じたことは、京都は資源に恵まれない土地だと。ですから京料理のルーツは乏しい食材を手間ひまかけて、味にうるさい公家や旦那家に供した「料理職人の加工技術」ぬきには語れないのです。一方大阪は、「食い倒れ」と言われ、うまかろう、安かるうと、エネルギッシュで食に対する貪欲さが見られます。では神戸はどうか。欧米文化との接触が多い土地柄であつたために、神戸の人達は、海に向こうに眼を向けて大阪や京都が苦手とするコンセプト、つまり「ハイカラ食文化」にチャレンジし、味の独自性を確立してきました。伝統や先代の歴史という足枷がなかつたために、神戸の食産業は開港以来ユニークな冒険ができたのかもしれません。

卑近な例が「ラムネ」。布引に湧く炭酸水を「布引サイダー」と呼んでいたそうですが、もともとは「レモネード」が「ラムネ」に転訛したわけです。「レモネード」

という「ハイカラ食文化の産物」を「ラムネ」という日本的な飲み物にブレンドして売り出した。まさに神戸人の知恵でしょう。

外来文化を旺盛に吸収し、消化して神戸の風土に同化させる努力が続けられてきました。神戸の食文化とは、単なる洋風文化の模倣のみに終わらず、それを神戸ナイズした味として定着させてきたことに意味があるように思います。異国の味が輸入され、その土地の風土にマッチするよう改良されると、本場の味とひと味違う魅力を増すこともあります。例えばパリのシャンゼリゼにカフェが似合うように、京都の嵯峨野に茶店ちゃみせが似合うように、神戸は港町と六甲山の素晴らしい背景の中でどんな店が似合うのか:そのような場所を見いだし、神戸オリジナルの味がどのように開発されていくのか。それが神戸の食文化に対する今後の宿題となるでしょう。

【2】一時期、大きいことはいいことだと何でも大規模化することが流行しましたが、最近は「デ・マシフィケーション (Demassification)」つまり、ダウン・サイズすることによるモノの密度や緻密さを求める傾向にあるようです。そういう意味で「工房」は、大工場ではなく、小さなワークショップ規模でモノを作ることであり、作る側の生命が込められているように思います。例えば音楽でも、学生が正しく音符通りに弾くのを聞いても面白くないでしよう。プロのミュージシャンが奏てる音は、少し間違っているのではないかと思つても、実はその人のノリやアドリブが曲を生かしていることが多いものです。大工場で規格通りに作られたステレオタイプな商品よりも、ワークショップで作られた職人の生命と心の通つた商品の方が人にアピールすることもあります。工房文化都市案は、神戸のオリジナルなプロジェクトに成りうるでしょう。



塩原一正さん  
(日本ソムリエスクール校長)

## 食のイメージ・オーダーシス テーマで文化を育てる

【1】神戸は、あまりにも食材に恵まれ過ぎていて、食文化は育たないのでないかと懸念しています。「恵まれた食材をいかにそのまま食べるか」では食文化にはなりません。また、神戸には食文化のわかる職人が育たないと言われますが、それは「あそこのめしはうまいが料金が高いからな」という価値観に起因するのではないかでしょうか。文化とは、ある程度お金がかかるものです。食文明ではなく、食文化を育てるためには、料理人や職人をしごけるお客様が増え、客同士あるいは客と料理人とのコミュニケーションをもつと活発にする必要があると思われます。

神戸には国内外の外来文化を受け入れる下地があります。しかし、受け入れたものを大量生産するだけでは文化にはなりません。例えばファッショントレンドの世界には、大量生産のレディース・メイドと受注少量生産のオーダー・メイドの他に、その中間のイメージ・オーダーがあります。神戸の食文化を育てる道はこのイメージ・オ

ーダーが適切ではないでしょうか。ファミリー・レストランの料理、これはレディース・メイドの大量生産でいいわけです。食におけるイメージ・オーダーとは、コストを下げるために基本になるメニューがあつて、そのなかである程度好きな料理を選ぶことができたり、少々お金をかければ、トリュフ、フォアグラ、キビニアが食べられるということになります。この食のイメージ・オーダーによって、あまりお金をかけずに、神戸に食文化が育つ可能性があるのではないかと思います。

また日頃お店ではテーブル・クロスはかけていないけれども、「今日このお客様には幸せなことがあったようだ。テーブルにクロスをかけてあげよう」などというホスピタリティにはあまりコストはかかりません。神戸では外来文化を積極的に取り入れ、おいしいものを作れるようになつたけれども、お客様に対するホスピタリティはまだ充分とは言えないのではないか。たとえ経営者がホスピタリティを持っていても、第一線のサービスマンが持たなければ結果としては同じだし、またお客様も本当のホスピタリティを理解していないので、あまりそれを期待しない。これらの点を改善していくばもつと神戸の食文化が発展していくような気がします。

【2】人間は何か一つのものを与えられると原材料は何であるのか、どうやって作られたのかと色々興味を持ちます。店で食べたものを真似して作りたいと思う人もいるでしょうし、そこが料理工房になっていて、調理をしているところをすぐ近くで見ることが出来れば、その料理に非常に興味がわいてきます。これはたくさん的人が神戸に来るきっかけにもなるでしょうし、また料理の道で何かしようとする意気込みのある若い人たちにとつても有効なことでしょう。

精巧なかつらのようすに本物の顔と見分けがつかない精巧なマスクが普及すればいいのにと田中氏は思った。そ

うなれば、流行の顔をいくつ持つていて、その日の気分で自分の好みに合つた顔面で出かけられる。寝る時にだけ取り外すタイプとか、二十四時間着用OKのタイプとか。そんな風になれば、顔の美麗なんて問題じやなくなるだろう。だつて、マスクさえ被れば、みんないつだって自分好みの美しい顔になれのだから。それは、美しい顔に生まれた人間だけの特権ではなくなるのだから。そうなると、かえつてマスクにはないような個性的な顔が珍重されるかもしれない。

なんとなく気分は憂鬱だったが、田中氏は薄くなりかけの髪の毛の形を整える作業にとりかかつた。

「ヘアスタイルでかなりごまかせるぞ。不細工なやつだつてトレンドィーな髪型してるとそれなりに恰好よく見えるもんなんだ。今の若いやつらが恰好よく見えるのもそのせいさ。女の子だってそうさ。ショートヘアだとんでもないのが、ロングヘアにすればそれなりに見えるだろ。だから、おまえの……そのなんていうのかな、昭和スタイルっていうのか、戦後をひきずつてるようなスタイル、変えたほうがいいんじゃないの」

同僚の鈴木はそんなアドバイスとともに、彼所有のヘアスタイルブックの中から秀れものを一冊貸してくれた。

「アートでいけ、アートで」と鈴木は言つた。

「長髪にしてるとなんとなく芸術家ぼく見えるだろ。それとも丸坊主にするかな。あるいはとことん変わった形もいいな。ビートルズしてるととか頭の後ろで髪の毛を一括りに結んでる奴とかモヒカンとかチヨンマゲにしてる奴とかいろいろいるだろ。あれなんかみんな少しぐらい不細工でもその不細工さが結構様になつてるだろ」

田中氏は悩んだ末、きょうの日のために鈴木氏の紹介でわざわざ何十万円もするノスタルジックな長髪かつらを購入していた。本物の髪の毛が伸びるのを待つには時間がなさすぎたし、間に合つたとしてもヒッピーマギーの長髪で職場に出かけていくわけにもいかない。そんなことをすれば、すぐにサヨナラを言い渡され、公園で自由な時間をたっぷりと味わう身になつてしまふだろう。

田中氏は髪の毛を整えた後、その上に高価なかつらをゆつくりと時間をかけて装着した。それから、後ろの髪をひとつかみすると、別注の黒いゴムで結んだ。その瞬間、鏡の中の彼は変身した。

「グレイト！」

田中氏は思わず叫んだ。心の中に濁んでいたつまらない買い物をしたんじやないかな、という後悔の思いは木づ端みじんに吹き飛んだ。かつらをかぶつた瞬間、昆虫が脱皮するように田中氏はうだつの上がらない経理マンの殻から抜け出した。少なくともそう彼には見えた。鏡

# 第一回 デヴ理達



説

小

ラン

載連

ブルー



木 絵

村

澤

森

の中の田中氏は別人のように生氣に満ちていた。彼は鏡に向かってにんまりとぼくそ笑むと、「やあどうも、私が田中孝介です」と、力強く語りかけた。それからすぐには「俺は田中孝介だ！」と、荒々しく言い直した。その声は自分でも驚くほど迫力に満ちていた。次に、これも鈴木氏の指示どおり、レインパンの黒いサングラスをかけ、鏡に向かってはすかに笑つた。

「グレイイト！」

田中氏はもう一度叫んだ。それから、口笛でブルースを吹こうと試みたが、唾が鏡面に飛び散つただけで、これはうまくいかなかつた。

まあ、そのうちうまくなるだろう、と彼は楽観的に考えた。これからはこのウイッグを被つて、憧れていたド

ラムスやトランペットにもチャレンジしてみよう。ジャズって恰好いいもの。それに、レゲエにサーフィンやスキュー・バディビングも。

田中氏はこの日のファッショントリアルズやトランペットを受けていた。できるだけ、ラフで自由な雰囲気にしてこと。彼はその教えに完璧に従つた。もう少し背が高くて、腹がへつこんでいて、肩幅が広くて、足が長ければ、このジーンズもデニムのジャケットももつと様になつたのだろうけれど……しかし、まあそんなに悪くはない、と田中氏は思った。

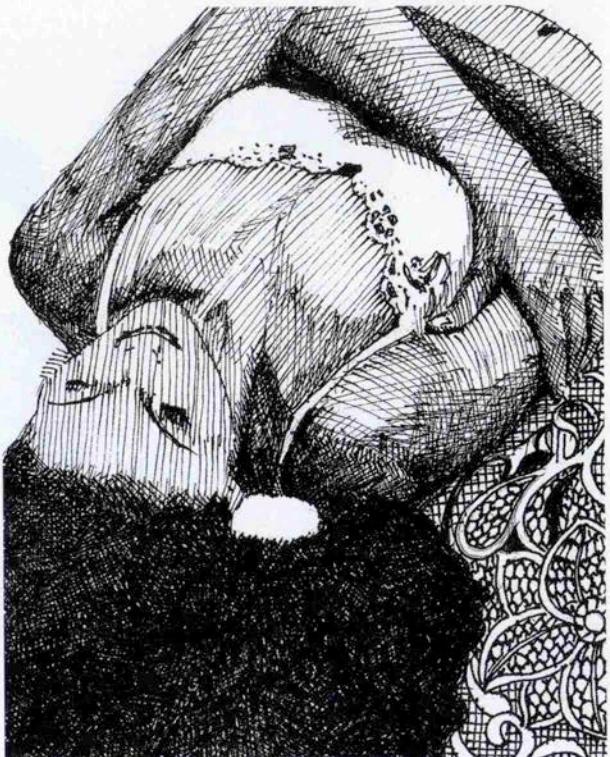
とくに、特注のハイヒールのブーツを履いた感じは最高だった。ただでさえハイヒールなのに靴の中にも仕掛けがしてあって、その靴を履くと背がさらに十センチ高

く見えるっていうやつ。そのぶん、視線も十センチ高く  
なり、十センチ高い世界から世間を見下すことができた。  
チビの田中氏にとって、かつらと同様この靴はまったく  
革命そのものだった。まさに田中氏のルネッサンスだった。

☆

かつらとサングラスと特殊靴と自由な服装で武装した  
田中氏は、ベートーベンの第九を口ずさみながら、アパ  
ートの廊下をスキップを踏んで進んだ。そのためには、薄  
暗がりを向こうからやってきた女性と、危うくぶつかり  
そうになった。昨日までの田中氏ならすぐに「すみませ  
ん」と口に出し、深くこうべを垂れていただろうけれど、  
その日の彼は違った。「馬鹿野郎！ ばやばやするな！」  
と、大声で怒鳴った。その声に気圧されるように、相手

の女性が脅えた声で「すみません」と小さく言つた。そ  
の時、田中氏はそれが隣室の大滝女史だと気づいた。田  
中氏にとって、この女性は天敵だった。ハンディカラオ  
ケでザザンオールスターーズの歌を練習していると、「う  
るさい！」と怒鳴りこんで来られたり、飲んで夜遅く帰  
宅した田中氏が鍵をあけようとしているとき、「静かにし  
てよ。今何時だと思ってるの！」と、ドアのところから  
首を出して叫ばれたり、「あなたの部屋が不潔すぎるか  
らあたしの部屋にまでゴキブリがわくのよ」と因縁をつ  
けられたり、とにかくことあるごとに田中氏はこの女性  
に責めたてられていた。しかも、彼女は田中氏にとって  
は最も苦手なインテリ階層に属していた。商業高校卒の  
田中氏はインテリに常々嫌悪感と劣等感、それにその裏



返しともいえる憧れの感情を持つていたのだが、そんな田中氏にとつて、パリからの留学帰りで、フランス語の翻訳をやりながら女子大の講師も務めているという大滝女史の存在は、十分圧倒されるものだつた。

それに、大滝女史の留学していたというフランスは、田中氏の憧れの土地でもあつた。フランスと聞いただけで田中氏はわくわくした。自分がフランス人だつたらどんなによかっただろう、といつも田中氏は思つていた。彼の部屋はフランス映画のビデオや、日本語に訳されたフランスの小説や雑誌、それに習得途上で挫折したフランス語の教材テープで埋まつていた。いつの日か、フランスに行つて、本場のカフェに入り、本物のフランス人と話ができるたらどんなに幸せだろうといつも考えていた。しかし、自分の醒さを考えると、フランスに憧れていると口に出しては言えなかつた。フランスと自分は対極にある、と田中氏は自虐的に考えていた。フランスに憧れています、フランス・フリーク、フランスが趣味なんですね、なんてことを言うと笑いになるのがおちだとも。結局、フランスへの憧れは憧れに終わるだらう、夢のまた夢に終わるだらうとも考えていた。

フランス狂いの田中氏にとつて、100パーセント日本人のくせしてフランスの言葉を自由自在にあやつる大滝女史はただのものじやなかつた。普通の人間じやなかつた。もしかしたら狐つきかもしれない、それもフランスの狐、そう考えて、田中氏は大滝女史に畏怖の念さえ抱いていた。そんな女性を、今、怒鳴りつけることができただんだ。そう思うと、田中氏は感激で胸が熱くなつた。怒鳴りつけるどころか、今なら彼女をレイプすることだけできると、田中氏は思つた。今まで、大滝女史に会うたびに、うだつのあがらぬ男として侮蔑され嘲弄されているように感じてきたのだ。縁なし眼鏡の奥に潜む切れ長の目、その氷のように冷ややかな瞳がそのことを語

つていた。「あなたはなんて頭が悪いの。ほんと、信じられないわ。それに、下品で、デリカシーがなくて、鈍感で。あなたみたいな人がこの世に存在するなんて、ほんと我慢できないわ」つて。

そんな男に怒鳴りつけられていることに、大滝女史は少しも気づいてはいなかつた。たぶんアパートの廊下が薄暗かつたし、田中氏の変身が功を奏していただけう。もつとも、変身しているのは、田中氏だけではなかつた。大滝女史も、その日はいつもと違つていた。いつも喪服じみた地味でおとなしく陰気な服装とは異なり、体にびつたりとほりつき体の線がくつきりと浮き出で見える薄いグリーンのワンピースに身を包んでいた。田中氏はサングラスごしに、大滝女史の姿を賞めるよう見つめた。

なんてイイ体をしているのだろう。スタイルの良さは普段の姿からも想像はついたが、これほどまでに素晴らしいとは。

田中氏は彼女を全裸にした時の光景を頭の中に思い浮かべて思わず唾を飲み込んだ。

縁なし眼鏡をかけた彫の深い端正な顔には、いつもと違つてきちんと化粧も施していた。くつきりとした目鼻立ちの大滝女史の顔を、化粧が一層美しく際立たせていた。こんなに美しい人だつたなんて……田中氏は呆然としてしばらくその美しさに見とれた。

大滝女史は「すみません、すみません、すみません」と、田中氏に向かつてたて続けに頭をさげると、廊下をエレベーターのある方向へと歩いていった。田中氏はその場に突つ立つたまま、下半身を熱くして大滝女史の後ろ姿を見送つた。デートの約束なんかすっぽかして、そのまま彼女の後についていきたいと、田中氏は一瞬に思つた。

## 神戸型破り 人物伝

その2

# インターネットはマンダラだ！ 被災地の映像を世界に発信

神戸市広報課員 松崎太亮さん

### ★歩いて歩いて

松崎さんはよく歩く。この日も自宅から待ち合わせ場所まで、四十分かけて歩いてきた。

「時間はかかるけど、ふだん考えることを考えられるでしょ。この店うまそうやなどか、あの女人きれいなあとが、くだらんことですけど」

学生時代は、インドや中国、東南アジアを歩いた。

「国によって時間の流れる早さが違つて、インドなんかはゆつたりしてましたね。歩くというのは、せかせかした日本との時間の流れを変えてみるといふことでもあるんです」

### ★助けに来る人の指標になれば

あの日もよく歩いた。一九九五年一月十七日、自宅近くの山に登ると、神戸の東側は真っ暗だった。須磨から転車で、板宿や鷹取を経て神戸市役所の震災対策本部へ。その間、メモをする代わりに各地の状況をビデオカメラに収めた。

次日の日には、その映像をインターネットで世界に発信。火災地域を示す地図をおそらく最初に流したメディアだろう。もちろんその情報は、松崎さん

が自分で歩いて得たものだ。

「いまから思うとええかげんな地図やつたかもしれないけど、とにかく助けに来てくれる人のための指標となればと思って」

しかし、被災者自身に対しては役に立たなかつたのではないか、と反省しているという。

### ★インターネットはええかげん？

「インターネットの良さって、ある意味でええかげんなところですね。Aの情報に直接つながるかつたら、BやCを経由してAにつなげる事ができるでしょ」

ある一点に到達する道はひとつではなく、回り道も用意されている。デジタルは合理的だといわれるが、柔軟な側面も併せ持っているのだ。

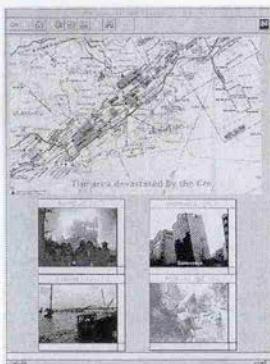
そんな縦横無尽なコンピュータの世界は、チベットで見た曼荼羅の図に似ていると語る。

「歩いて人に出会うこともインターネットでアクセスすることも、同じ人間の営みなんですよ」

（本誌・矢ジマジユン）



映画監督の青池憲司さん(左)と松崎太亮さん。  
カトリック謙取教会で



神戸市のホームページアドレス  
<http://www.kobe-cufs.ac.jp/kobe-city>

### ●まつざきたいすけ

1959年生まれ。1984年神戸市入庁。福祉事務所、交通局、開発局を経て、1993年から広報課職員。1995年1月18日、被災地の映像をインターネットで世界に発信。現在、サンテレビ「すてきに！神戸」のプログラムディレクター。神戸市須磨区在住。